

森林・林業の姿

過去、現在、未来



「林政の窓」8巻

先日、書架の大掃除をしていたところ、林野庁広報誌「林政の窓」の創刊号（昭和47年9月発行）から数年分を発見しました。「林政の窓」は林野庁広報誌のさきがけで、以降「林野時報」、「林野」と名を変えて現在に至ります。創刊号からの数年間については、林野庁図書館にも収蔵されており、当時の林政や論調を知る貴重な資料です。今回見つけた「林政の窓」のうち、昭和48年6月発行の通巻8号に「50年後の森林・林業」と題して、森林計画の特集が

ありました。当時の記事を紐解きながら、森林・林業のこれまでの歩みとこれからの姿を解説します。

●42年前の森林・林業の目標

今から42年前、昭和48年2月に「森林資源に関する基本計画」と「重要な林産物の需要及び供給に関する長期の見通し」が発表されました。これは、現在の「森林・林業基本計画」にあたるもので、森林・林業政策の長期の指標となるものです。昭和48年の基本計画は、国土保全など森林の役割と調和を保ちながら、人工林資源の充実を目指したものでした。

そこでの昭和96年（平成33年）の主な目標・見込みは、①総蓄積森林の木幹の体積を36億 m^3 にする ②国産材供給量を5,900万 m^3 と見込むと記載されています。戦中・戦後は、必要な資材を供

図1 昭和20年頃の森林のイメージ



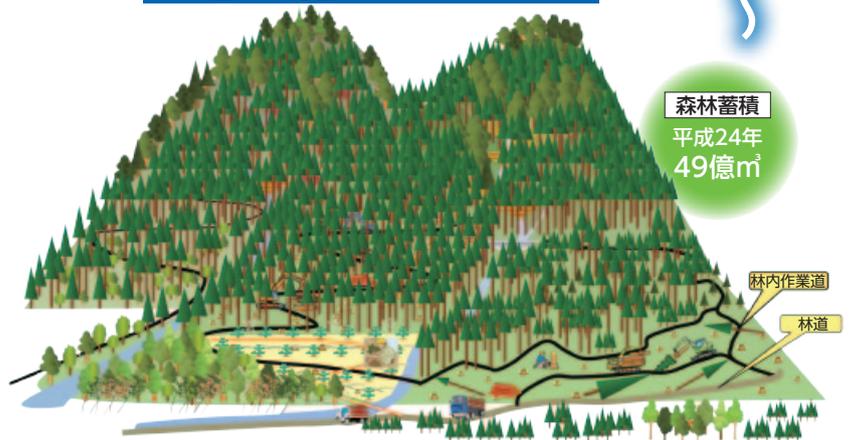
図2 昭和40年頃の森林のイメージ



給するため、全国的に伐採が進み、森林が荒廃していました（図1）。伐採跡地への植栽が積極的に行われ、記事が掲載された昭和40年代当時（図2）は、森林資源の回復途上でした。「大幅に蓄積量を増やす」ことを目指して、計画作成当時、現状として示された21億 m^3 の森林総蓄積を、50年後に36億 m^3 にするという目標が立てられたのです。

また、高度経済成長下、木材需要が増大する中で、当時4,600万 m^3 であった国産材供給量は、50年後に5,900万 m^3 と見込まれました。

図3 現在の森林のイメージ



●現在の森林の姿

現在の森林（図3）は、総蓄積は49億 m^3 となり、人工林を中心に毎年約1億 m^3 増加しています。平成33年に36億 m^3 にするという目標を、既に10億 m^3 以上、上回っており、人工林資源は充実し、本格的な利用期を迎えています。

他方、現在（平成25年）の国産材供給量は、2,100万 m^3 と、昭和48年当時の見込みの半分以下ですが、ここ10年間で、国産材供給量は500万 m^3 増加しています。

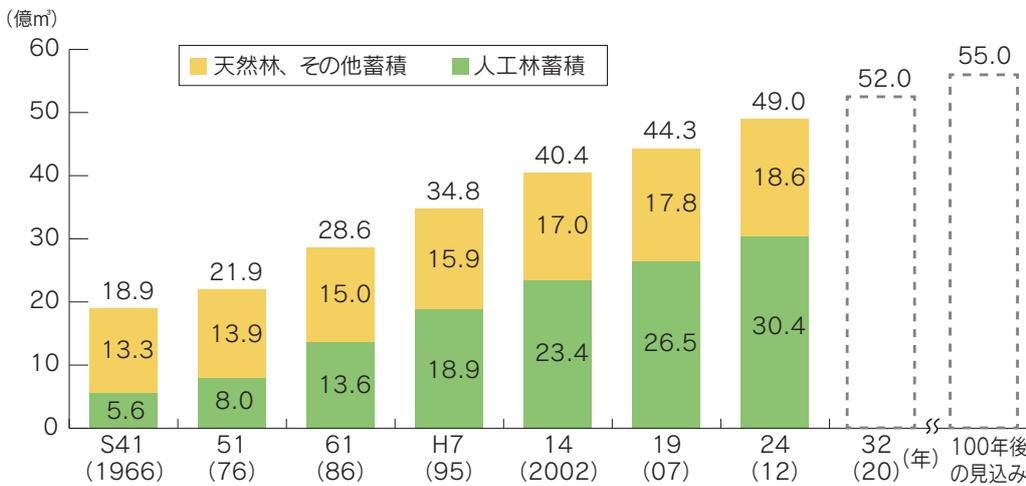
図4 100年後の森林の姿のイメージ



●今後の森林の姿
 平成23年に作成された現行の森林・林業基本計画では、東京五輪が開催される平成32年には、総蓄積は52億m³、国産材供給量は3,900万m³とするのが目標です。更に、100年後の森林の姿のイメージは図4のとおりです。
 このように、日本の森林は豊かにな

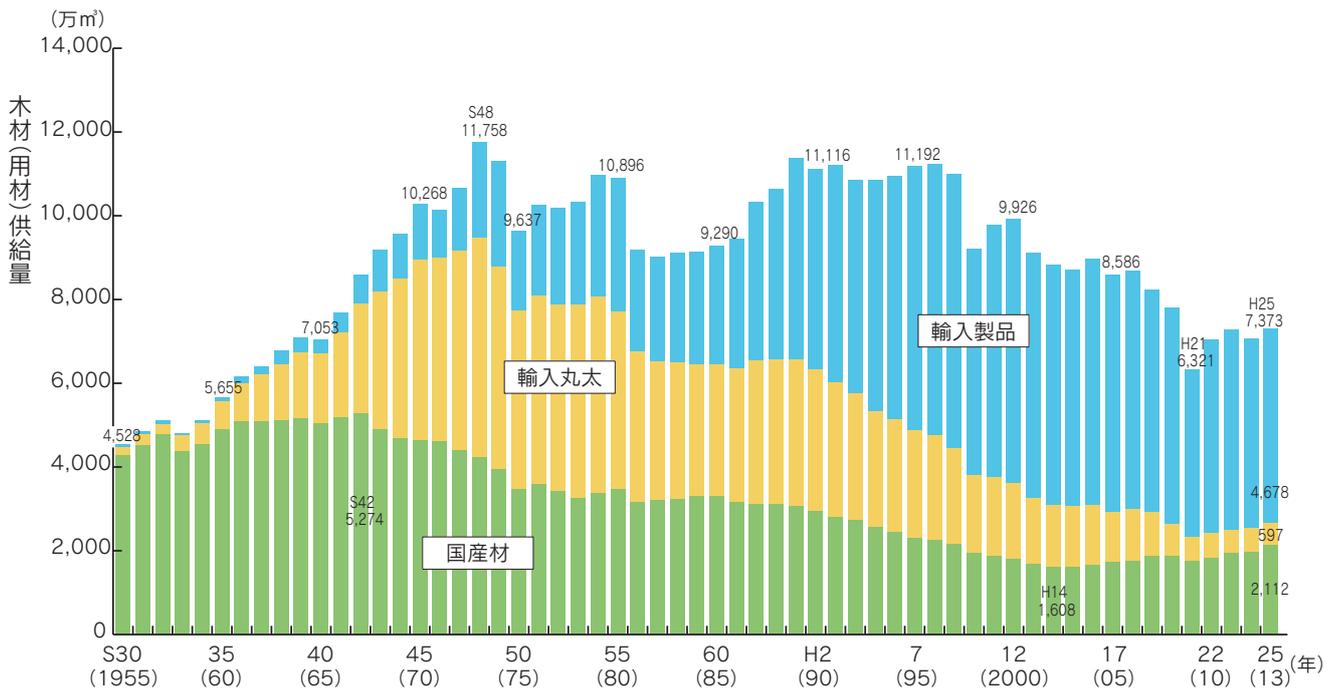
り利用期を迎えています。今年も情報誌「林野」では、資源を有効活用し、林業の成長産業化を実現するための森林整備や木材利用をはじめとする様々な取組をお伝えしていきます。

図5 森林蓄積の推移



注1:各年とも3月31日現在の数値。
 注2:平成19年と平成24年は、都道府県において収穫表の見直し等精度向上を図っているため、単純には比較できない。
 注3:平成32年と100年後は見込み値。
 資料:林野庁「森林資源の現況」

図6 国産材供給量の推移



資料:林野庁「木材需給表」